

津川雅彦 ～華麗なる芸能一家 幕末の激動～ 「ファミリーヒストリー」

(NHK 総合 2018年2月7日 22:25 - 23:15 放送)

<https://datazoo.jp/tv/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%9F%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%92%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%AA%E3%83%BC/1136571> 「TV でた蔵」 サイトより

津川雅彦（本名 加藤雅彦）は父・澤村國太郎（本名 友一）の次男として生まれた。中野・高徳寺には加藤家の墓がある。墓誌筆頭は曾祖父の平八とその妻・トシ。それ以前は戦災により分からないと記されている。いとこにあたる矢島おばさんから「鳥の子話」を聞かされたという。東京から水戸に来た際、家の前に三叉路があり立て札には鳥が通る小道と書いてあったという。小学校で字が読めるようになりハトは馬頭、カラスは鳥山、鳥の子は鷺子（とりのこ）という地名だと知った。

茨城県北部の常陸大宮市鷺子、700 年以上続く照顧寺でトシの実家が薄井という姓だったことがわかった。トシの父親は幕末、薄井本家の当主だった薄井友衛門という人物で、紙問屋で栄えていた。友衛門は水戸藩に多額の献金をし、その見返りとして郷士の身分を得た。薄井家に繁栄をもたらしたのは紙、この地域で採れる質の良いこうぞで出来た紙は、江戸に出荷され高値で取引された。

しかし黒船来航をきっかけに水戸藩は改革派の天狗党と門閥派の諸生派で混乱、友衛門は諸生派を支持していた。やがて権力を手にした諸生派が、対立した天狗党に加わった者やその家族を粛清した。1867 年に大政奉還が行われると水戸藩はまたも大混乱。天狗党の生き残りが諸生派への報復を始めた。薄井家も狙われ、一族は散り散りになって逃げたが男子のほとんどはこの混乱期に亡くなつたと伝えられる。薄井家がどこに逃げたかは定かではない。

その悲劇は嫁いで薄井の家を出た者まで巻き込んだ。江戸で酒問屋の加藤家に嫁いだトシ、明治元年、息子の傳太郎が生まれてまもなく、天狗を名乗る賊に襲われ、命は助かったものの全財産を奪われ、それをきっかけに酒問屋は潰れたと語り継がれる。事件後、トシは家族に累を及ぼすの恐れ、加藤の籍から抜け、石井性に変わっていた。その後、夫は失意のうちに亡くなる。トシは女手一つで2人の子どもを懸命に育てた。

津川の祖父、加藤傳太郎は全く苦労が身につかないタイプで役者になりたいと言い出す。周囲がそれを許さなかつたがトシが作家ではととりなした。早稲田の演劇博物館に傳太郎の記録が残っていた。歌舞伎作者 河竹黙阿弥の弟子だった傳太郎だったが、師匠の死後は芝居小屋で仕事を始める。しかし役者志望だった傳太郎は作家修行には身が入らず、やがて傳太郎は自分が役者になれないのなら、子供を役者にしようと、35歳にしてやっと身を固めた。その望はかない、4人の子供の内、3人が役者となり、それぞれが成功を収める。長男の友一は20歳で澤村國太郎を襲名した。

祖父は弟子といつても本を書いているわけではなく、木を打って幕を開けていたが、いい男なんでそれだけを見に來たファンがついていたという。

津川雅彦の両親はどちらも役者で、母親のマキノ輝子は一世を風靡した女優だという。マキノ輝子の父は日本映画の父と呼ばれた牧野省三だという。

スタジオでは津川雅彦が「エラい家庭に生まれちゃった感じがする」と語った。